



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2023年 12月 15日	
所属部局・学年	野生動物研究センター 修士1年
氏名	小川あゆみ

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)		
熊本県宇城市 熊本サルクチュアリ		
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)		
動物福祉実習		
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)		
2023年11月24日 ~ 2023年11月27日 (4日間)		
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)		
熊本サルクチュアリ		
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)		
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。		
○スケジュール 11/24 施設全体の見学、チンパンジーへの餌やりの見学 11/25 採食エンリッチメントの体験、実験の見学、ブランケットの作成 11/26 採食エンリッチメントの体験、ボノボに与える福袋の作成と運動場への設置		
○成果 ●チンパンジーの採食エンリッチメント おやつのパケツには、みかんやパイナップルなどの果物類や大根やピーマンなどの野菜類が入っていた。ピーマンなどの苦味が多いものは好まないイメージがあったが、チンパンジーはあまり気にしないらしい。採食エンリッチメントでは、チンパンジーが採食に時間をかけられるように、チンパンジーが見つけにくい場所におやつを隠すことを意識した。また、柵にかかっている筒にりんごジュースや葡萄ジュースを入れ、チンパンジーが道具を使用して飲む様子を観察した。一度に飲むジュースの量を増やすために、木の枝先を箒の様にほぐしたり、藁にジュースを染み込ませてしがんだりなど、個体ごとに工夫している様子が興味深かった。		
		
写真1: 採食エンリッチメントで使用したおやつ	写真2: おやつを隠している様子	写真3: ジュースを飲む様子
●ボノボに与える福袋(フィーダー)の作成と設置 ボノボには、紙袋やペットボトル、筒などで福袋を作成した。中身は、野菜類や果物類、ナッツ、どん		

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

ぐり、はちみつである。作成したものをボノボの運動場の中に配置し、外からボノボの様子を観察した。ペットボトルを壊して中のエサを食べる者、ペットボトルを壊さずに指を突っ込みながら食べる者、自分では探そうとせずに他人の福袋をねだる者など、わずかな観察時間でも、それぞれの個体間関係や性格が伺えた。ある個体が自分の手元にあるエサを食べ終えた後に、吐き戻しの異常行動を見せた。



写真 4: 福袋作成の様子



写真 5: エサを入れたペットボトル



写真 6: 福袋の中身を食べる様子

○まとめ

今回の実習で、初めて直接ボノボを観察することができた。また、チンパンジーの社会交渉を間近で観察したのも初めてで、非常に貴重な経験をすることができた。これら2種は、非常に知能が高く、力が強いので、なかなか近づいて触れ合うことは難しいと思っていた。しかし、長年飼育に携わってきた平田先生や飼育員の方々のチンパンジーとの信頼関係の強さに驚いた。飼育動物を使って認知実験を行う際に、信頼関係を築いていることがいかに重要かということを知ることができた。飼育動物は、何もすることがない時間が長いため、過剰なグルーミングにより毛が薄くなってしまったり、吐き戻しという異常行動が癖になってしまったりする。こうした現状に対して、飼育員の方々が様々な工夫をされていることを学んだ。

※メンター（PWS プログラム指導教員）が確認済の報告書を【report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp】宛にご提出ください。

6. その他（特記事項など）

本実習で引率をしてくださった平田先生、様々な場面で実習のサポートをして下さった熊本サンクチュアリの職員の方々に深く感謝申し上げます。